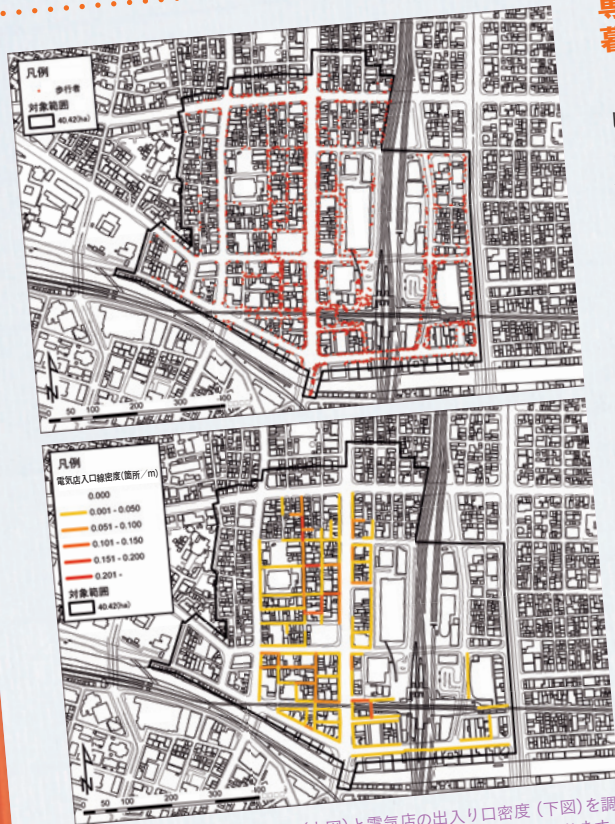


法政大学 [福井恒明研究室] 景観研究室
デザイン工学部 都市環境デザイン工学科

The
Sugoi
Labo



まちの新たな魅力を創出する 景観を考える研究がスゴイ!!



東京・秋葉原での歩行者の分布(上図)と電気店の出入り口密度(下図)を調べたもの。大通りだけでなく、多くの通りが活発なことなどがわかります。これらの客観的データをもとに新しいまちづくりの手法を考えます。

専門分野を統合して 暮らしやすいまちをつくる

景観研究と聞くと、美しさを目指すことと思われるかもしれませんが、そうではありません。この研究は快適で暮らしやすい都市空間を実現する方針を考えるための研究です。ひとりの建築家が施主(注文した人)と相談して設計する建築物と違って、「まち」はひとりの考えではなく、そこに住んだり働いたりする人々がいろんなことを考えた末にできあがります。そのためにバラバラで統一感のないまちになってしまうこともあります。法政大学の福井恒明研究室では、そこで生活する人たちが快適に過ごせるようなまちづくりのために、橋や川、道路、あるいは景観がどうあるべきかに関する研究を行っています。研究室の学生たちはそれぞれの研究テーマに沿ってまちを歩き、歴史的な経緯と現状を調査し、まちの姿や人の動きを分析しながら、新しいまちづくりがどうあるべきかを考えています。



自転車にCCDカメラを取り付けて走り、まちのにぎわいを調べることも。

PRACTICE

魅力的な川まちづくりを提案

左の模型は福井先生が対外的に関わっている新潟県・咲花温泉のプロジェクトです。阿賀野川の洪水被害復旧として単純な堤防をつくるのではなく、川辺の露天風呂を楽しんでいた歴史的な経緯を踏まえて、人が水辺を楽しめるような空間づくりを目指しています。このように、まちの空間全体を視野に人々の移動や利用まで考えたデザインを提案するのが景観研究の仕事です。魅力あるまちづくりのためには、「使う人のことを深く考えてからモノをつくること」が大切と福井研究室では考えています。

景観研究やそれを活かした仕事で大切なのは、現地に出向き、人と話してまちづくりを考えることです。



福井恒明教授へのQ&A

Q 景観研究というのはどのような学問なのでしょう。これまでの学問分野との違いは何ですか？

所 属する都市環境デザイン工学科は、以前は土木工学科と呼ばれていました。この分野には地盤や河川、橋の構造など「公共物」を括りにしたさまざまな専門家が集まっています。ただ、いざ都市や地方の空間をつくる際には、各々の専門家が独自に公共物をつくとバラバラのものができてしまいます。そこで全体の価値観をまとめて、安全・環境・地域の歴史にも配慮し、利用しやすい空間設計をする必要があります。そこで出てきたのが景観という分野です。例えば洪水に強い河川に変えようというときに、洪水を防ぐことだけを考えてつくと味気ない場所になってしまいがちですが、私たちは川そのものだけでなく、近くに住んでいる人が日常的に使いやすいような川辺にするにはどうしたらいいかを、住民や行政と一緒に考えるのです。

Q この研究に大切なことは何ですか？単にまちを綺麗にすればいいのですか？

た だ綺麗にするだけでなく、そのまちの歴史を踏まえたうえでどう整備したらいいかを考えることが大切です。歴史的な経緯を知らずに、「これが一番いいはず」と一方的な提案をするのはよくありません。その場所がどんな歴史を持っていて、どのように使われてきたのか、資源として残すべきものは何かなどを理解して、未来を提案する必要があります。



先生が監修した土木学会創立100周年の切手。

Q この研究の面白さは何ですか？どんなことを得られるのでしょうか？

人 間やまちが好きで、バーチャルよりも現実の空間に興味がある人には面白い研究分野だと思います。川や道などを含めてどうまちにしたらいいかを計画・設計から利用までさまざまな角度から考えることができるのはこの分野ならではのところです。ここで学んで、都市空間にかかわる仕事をするときに、利用する人の気持ちがわかるような設計者なり技術者になる素養を身につけられると思います。そういう人が増えれば、日本の都市空間はもっとよくなると思っています。

人の気持ちを理解して
都市空間をよくしたい

ふくい つねあき
福井恒明 教授

1970年、東京都生まれ。東京大学工学部土木工学科卒業、同大学院工学系研究科修士課程修了後、清水建設に入社。その後、国土交通省国土技術政策総合研究所、東京大学大学院工学系研究科特任准教授などを経て、2012年に法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科准教授に。13年に同教授。博士(工学)。



まちの見方が変わります



はたみ きき
畑美咲さん
法政大学 デザイン工学部
都市環境デザイン工学科
4年

うしお ゆかこ
潮優香子さん
法政大学 デザイン工学部
都市環境デザイン工学科
4年

ひらの あやこ
平野綾子さん
法政大学 デザイン工学部
都市環境デザイン工学科
4年

福井研究室に在籍している先輩リケジョは4人。うち3人は4年生で、現在卒業論文に取り組んでいる真っ最中です。3人とも福井先生の接しやすさや人柄に惹かれてこの研究室を選びました。平野さんは、高層ビルの内部から見た景色がテーマ。「同じビルでも外から見るのと隣のビルのなかから見るのでは景色が違うはず。どんな見え方をしているのかを評価したい」と言います。自分が使っている駅が再開発されたことをきっかけにこの分野に興味を持ったという潮さんは、駅とまちのつながりを、いろいろな場所をサンプルに研究中で、「人の密度、広告物、見通し、距離などによって、駅とまちのつながり方を客観的に示したいと思っています」と意気込んでいます。畑さんのテーマは公園。「歴史的資源や古墳、遺跡を活かした公園計画を考える研究です。公園のなかに歴史的なものが一体化しているものと、うまく一体化していないもの、それぞれの違いがどこにあるのか、実際に見に行ったりして調べています」。



3年生の演習で共同製作した東京都心の模型。それぞれのビルの高さや道幅なども正確に再現します。

とにかくまちに出てみる

「部屋のなかでの座学だけでなく、実際の空間で観察するのが大事」(福井先生)という方針に沿って、学生



ちは積極的にフィールドワークを行います。「研究室に配属されてから、何ヶ所もまち歩きに行きました。今も各自それぞれの卒論のテーマに沿った現地調査をしています」と平野さん。